

レポート

市立西宮高等学校 2年 星野 航輝

スポークンで過ごした6週間を振り返って思い出すのは、とにかくあつという間だったということだ。ホームカミング、ハロウィンをはじめとする数々のイベント、現地の学校の授業や課題、コーラス家と過ごした日々、いろいろなところへ行ったこと、毎日が信じられないスピードで過ぎ去っていった。見るもの聞くものすべてが新鮮で、楽しい思い出の連続だったからであろう。何が一番楽しかったかと聞かれても答えるのに困るほど、何もかもが楽しかった。途中、授業で課された論文、レポート、プレゼンの準備などの課題の多さにくじけそうになったこともあったが今となってはいい思い出だ。このプログラムでスポークンに行けたことは一生の宝物だ。今まで経験したことのないとても充実した6週間だった。

僕がこのプログラムに応募したのは、中学2年のときにボルネオ島に行ったことがきっかけだった。現地の人と熱帯雨林の中で過ごし、自然の素晴らしさに魅せられた。そして、将来このような美しい自然を守る活動に関わりたいと強く思った。環境問題は地球規模で物事をとらえるための広い視野が必要であると思う。そこで僕はアメリカに行き、異なる考え方や文化に触れ、日本という国を外から見たいと考えた。

ダニエルとの日本での生活は楽しいものだったが、今思うともっとこうしておけば良かったなあーとも思うこともある。常にポジティブで何事にも感謝していた彼の姿勢から僕も家族も学ぶことが多かった。そんな彼はすぐに学校の人気者になった。彼によると日本の学校生活は「サイコー」なのだそうだ。僕は部活が忙しかったので観光には主に両親が連れて行ったが、徳島の吉野川でのキャンプ、日本海での海水浴は僕が連れて行きたかったところなので一緒に行けていい思い出ができた。通学路のゴミ拾いボランティアと一緒にしてくれないかと彼に聞いたところ、とても快く引き受けてくれた。また、老人介護施設に慰問演奏にも行き、彼はサクスを僕はピアノを弾いた。演奏後、聞いていた人が涙を流しながらありがとうと言ってくれたときはぐっときた。彼が帰った後はアメリカでの再会が待ち遠しく、2ヶ月がとても長く感じられた。

ダニエルに会いたい気持ちとは裏腹に、アメリカ生活を楽しめるか、学校に馴染めるか、不安でいっぱいだったがコーラス家に会った途端、想像していた不安は吹き飛んだ。コーラス家はみんなフレンドリーで陽気だったからだ。知らない場所に飛び込んで行く上でダニエルと友達であったことはとても心強かった。彼のお陰で、友達もすぐにたくさんできて学校生活も楽しいものとなった。

学校で採った授業は以下の通り。毎日同じ時間割なので集中的に勉強ができる。放課後が日本に比べて長く、時間の流れがとてもゆっくり感じられた。僕の場合、家に帰ったらすぐ友達の父親が運転する車に乗せてもらってテニススクールに通った。

1. Jewelry and small sculpture、指輪作成、金属合成
2. AP English lang and comp A エッセー(論文)ライティング
3. Japanese 5 running start 日本語
4. AP US history A アメリカ史
5. Environmental chemistry A 環境化学
6. Pre-calculus A honors 数学

アメリカの授業スタイルは日本のものとは異なり、とても自由で積極的だった。いくら先生が話をしようとして質問や異議があれば手をあげて言いたいことを言う。最初はこのスタイルに戸惑ったが、授業を受けていくうちにだんだん慣れてきて言いたいことが躊躇なく言えるようになった。1番楽しかった授業は環境化学だった。実験が日本の授業よりはるかに多く、プレゼンや宿題のレポートを通して化学の観点から世界の環境問題について学ぶことができた。日本でもこんな授業が受けられたらいいのにと考えた。

今回僕がアメリカでの経験を通して一番強く感じたのは、価値観や生活様式が違って、人間の根本的な部分は同じということだ。細かい部分でカルチャーショックを受けることはあったが、人への親切、挨拶、笑顔、家族団らん、これらに対してうれしいと感じ、また、自然を美しいと思う心に人種は関係なく世界共通であると思った。僕自身、ホストファミリーの温かいおもてなしや、学校の授業などで知り合った友達がいつも笑顔で挨拶してくれることを、とてもうれしく感じたのを今もはっきりと覚えている。

コーラス家は最高のホストファミリーだった。僕がアメリカでできたらいいなと思っていたことをすべて叶えてくれた。シアトルマリナーズの野球観戦、ミズーリ川でのフライフィッシング、ロッキー山脈へのサイクリング、テニススクールでのレッスン、ボランティア活動、どれもコーラス家に滞在させてもらったからこそ体験できたことだと思う。心から感謝を述べたい。

最後になりましたが、西宮スポークン交換学生プログラムの関係者の方々、アメリカでお世話になった方々、過去派遣の先輩方、たくさんの方々の支えによって無事に終わることができました。特にスタッフの方々には出発まで月1回の研修会の企画・実施、週1回のWeekly Topicのやり取り、ホームステイ受け入れ時のアドバイス、空港までのお見送りなどでお世話になりました。お陰様でこのプログラムがより充実したものになり、心強かったです。本当にありがとうございました。

Weekly Topicは気軽に取り組み、文章を書く力がついたことを実感したため、滞在中は日々の出来事を毎日ブログに更新しました。興味のある方はどうぞ。

<http://ameblo.jp/hkoki0214/>

「川ガキの冒険」で検索←

